

急性・重症患者看護専門看護師 の倫理的行動修得のプロセス

伊藤美和¹⁾ 明石恵子²⁾ 森木ゆう子²⁾
江口秀子³⁾ 大川滋美²⁾

1)名古屋掖済会病院 初療室

2)名古屋市立大学 看護学部

3)大阪青山大学 健康科学部

研究動機

救急場面での 倫理的問題

患者の意向の確認困難

代理意思決定者の適切性

治療後の病態の不確かさ

救命と延命の認識の違い

短時間の治療方針の決定

教育

看護倫理

生命倫理

臨床倫理



目的と意義

目的

倫理的対応能力が優れている急性・重症患者看護専門看護師(以下CCNS)の倫理的行動修得のプロセスを明らかにすること

意義

救急看護師の倫理的問題への対応能力向上へ寄与する教育方法の構築への示唆を得る

研究方法

対象

救急医療や集中治療における倫理調整の経験があり、倫理的行動に関する著書・研究論文・学会発表のいずれかを有するCCNS 4名

データ収集方法

倫理的行動の4要素（感性・判断・動機・特性）についてインタビューガイドを用いた半構造的面接

倫理的行動

```
graph TD; A[倫理的行動] --> B[倫理的 感受性]; A --> C[倫理的 推論]; A --> D[倫理的 動機]; A --> E[倫理的 特性];
```

倫理的 感受性

- ・ 内在する課題に
少しのヒントから
見出す能力
- ・ 気付き・洞察力
- ・ 直感、ジレンマ

倫理的 推論

- ・ 事実から論理
的な結果を導き
出す過程

倫理的 動機

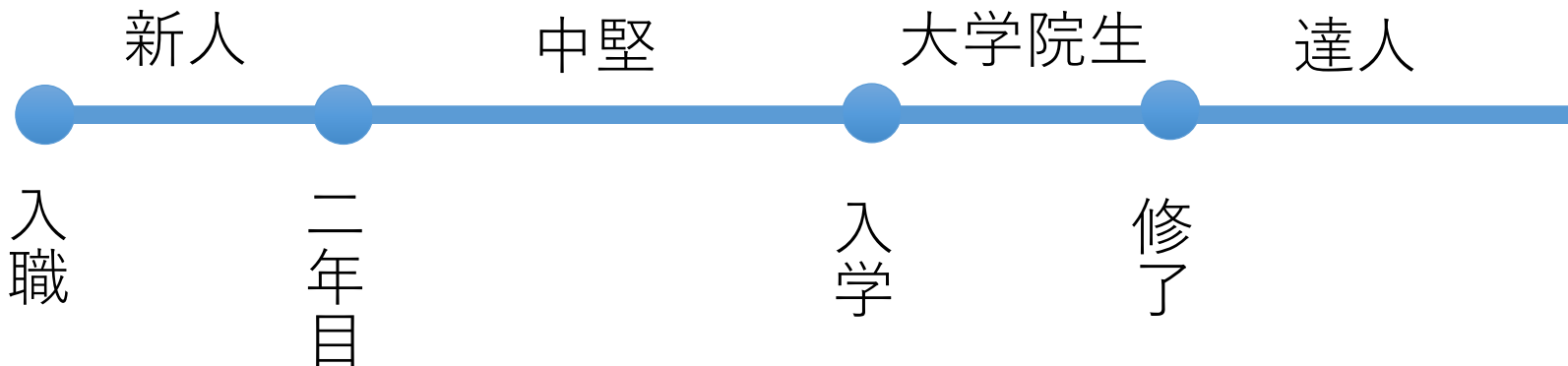
- ・ 興味
- Ex
- ・ プライマリー
 - ・ リーダー
 - ・ 勉強会の後

倫理的 特性

- ・ 忍耐力
- ・ 打ち込む強さ
- ・ 勇気

分析方法

- 音声データから逐語録作成
- 新人・中堅・大学院生・達人という過程において、CCNSがどの様に倫理的行動を修得してきたのかを倫理的行動の4要素を参考に質的記述的に分析



倫理的配慮

- 名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会及び研究協力者の所属施設の責任者の許可を得て実施した
- 研究協力の自由意志・同意後の撤回の自由・個人情報保護・データ管理方法を説明し、書面による同意を得た
- 面接中にいつでも中断・中止できることを伝えた

結果

• カテゴリー数

新人	・	・	・	・	・	2
中堅	・	・	・	・	・	4
大学院生	・	・	・	・	・	3
達人	・	・	・	・	・	1 2

カテゴリー

• コード

新人の頃の倫理的行動

看護場面での悩みや不安を説明できない

- 思い描いていた看護とのギャップに悩んでいた経験
- ふつつつとした感情を話しても誰とも共有できなかった

看護師としてのキャリアを考える環境で育つ

- 将来のビジョンをもった先輩たちが多い環境で育った

中堅の頃の倫理的行動

疑問や違和感が倫理的問題であると気づかない

- ・倫理ということがよくわかっていなかった

患者家族の意向が尊重されていない事に気づく

- ・医師の価値観で治療方針が決定される事に違和感があった

患者の権利擁護を意識する

- ・患者の権利を守れなかった事に自分だけが憤慨していた

患者にとっての最善に悩む

- ・患者にとっていい事とは何かを考え続けていた経験

大学院で修得した倫理的行動

過去の経験と倫理が繋がる

- ・過去の臨床経験を振り返る事で、倫理的問題と気付く

倫理的問題への関心が高まる

- ・倫理的問題に対して状況が整理できると気持ちが楽になり、さらに関心を持った

看護観を確立する

- ・自分の看護を説明できるようになる

達人（CCNS）の倫理的行動(1)

倫理問題を指摘する

- ・救急では常に倫理的問題は生じていると思う

倫理問題の全体像を把握する

- ・CNS活動をノートに記載して、状況をクリアにする

倫理原則を元に価値の対立を考える

個人的価値と専門的価値を意識する

患者にとっての最善の選択となるよう支える

達人（CCNS）の倫理的行動(2)

倫理的問題への解決に自信を持つ

- ・情報の整理の積み重ねで、頭がトレーニングされている

組織内外のサポートを支えとする

成功体験を支えとする

- ・関わるプロセスに間違いがないと自信があれば頑張れる

自分自身を客観視して対処する

- ・自分のストレスコーピングを大事にする

人間関係を意識して倫理調整を行う

- ・人間関係は、今後どうにでも出来ると思う

達人（CCNS）の倫理的行動(3)

組織の倫理的問題への対応不足を感じる

- 管理者の倫理教育が必要だと思う
- 医師の倫理教育が不足していると思う

組織の倫理的問題への対応に変化をもたらす

- スタッフの倫理的気付きをサポートする
- 倫理委員会の病棟リンクナースの活動を支える

CCNSの倫理的行動修得プロセス

倫理的行動への組織的な取り組み

倫理的問題解決への自信

原則・価値に基づく倫理的判断

倫理的問題への関心の高まり

非倫理的な状況への気づきと悩み

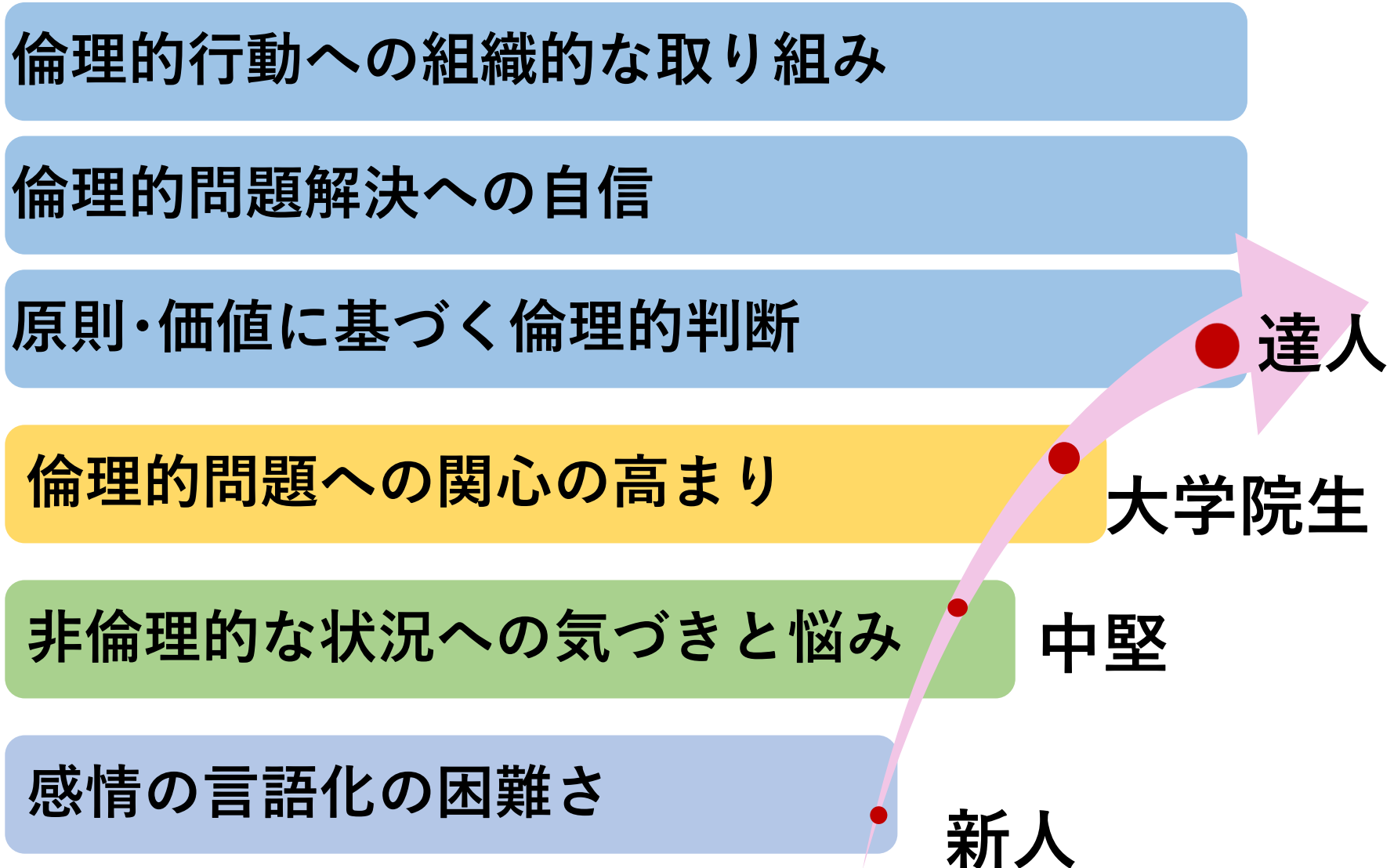
感情の言語化の困難さ

達人

大学院生

中堅

新人



結論

- CCNSの倫理的行動は、疑問や違和感を感じても対処方法がわからず悩む時期を得て、大学院での学びによって倫理的問題への関心を高めていた
- 倫理的問題解決の思考プロセスのトレーニングを積み、自分自身を客観視し、倫理調整の妨げとなる人間関係を調整することで、倫理的行動を修得していた

謝辞

- 本研究にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。
- なお、本研究は、科学研究費助成事業による研究です。